

教育・教育活動等の情報公開

1. 教育研究上の目的

建学の精神

『命と向き合う心、知識、技を持った地域医療に貢献できる医療人の養成』

(岐阜保健大学の目的)

岐阜保健大学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に基づき、保健医療に関する専門の理論及び技術を深く教授研究し、並びに豊かな人間性、高潔な人格と専門的能力をかね備えた資質の高い人材を養成することにより、地域の保健医療の向上と福祉の増進に寄与し、その教育研究の成果により、広く地域と社会の発展に貢献することを目的とする。

三つのポリシー

入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

自主自学の精神に基づき、自律して学ぶ意欲を持つ人を受け入れる。

1. 十分な基礎学力を有し、主体的に学ぶ姿勢を持ち積極的に課題解決しようとする人
2. 看護への強い関心を有し、看護学を学ぶ意欲の高い人
3. 豊かな感性を備え、コミュニケーションを通じて他者と関係を育むことをいとわない人
4. 看護を通じて地域社会に貢献していく志のある人
5. 異なる文化や価値観を理解し、国際社会の発展に保健医療を通じて貢献する意欲がある人

看護学を学ぶために必要となる大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

1. (国語) 日本語の読解力と適切に表現する能力
2. (英語) 国際的なコミュニケーション手段としての英語の能力
3. (生物・化学・数学) 生命現象を理解する上で必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 教育課程は、基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目の3科目区分から構成する。
2. 基本教育科目は、人間力や看護する対象の全人的・共感的な理解、コミュニケーション能力の養成のため、人間理解のために「思考力の養成」、「表現力の養成」、「人間力の養成」、「人間の理解」の4科目領域を置く。

3. 専門教育関連科目は、看護の対象理解の基盤として、パートナーシップや科学的な知識や根拠に基づく判断力や対応力を養成するため、「健康と健康障害の理解」と「社会と環境の理解」の2科目領域を置く。
4. 専門教育科目は、科学的根拠に基づく、看護のコアとなる知識と技術である看護実践能力とケア・スピリットを養成するため、看護の理解のために「看護の基本」と「看護の展開」の2科目領域を置き、「看護の展開」の中に、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」、「在宅看護学」の各看護専門分野の科目領域と、看護の統合的理解として、多職種連携・協働、地域社会の特性の理解と地域への貢献、看護専門職者としての成長に重点を置いた、「看護の統合と発展」、「公衆衛生看護学」、「看護研究」の科目領域を置く。

学位授与方針（ディプロマポリシー）

本学部では、必要な単位を取得し、次の能力を有すると認められた者に、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 人間力
人間性豊かで温かく、人間に対する深い畏敬の念を持ち、地域に暮らす多様な人々の生活・文化を尊重し、周囲の人々とコミュニケーションを通して理解し合い、協働することができる。
2. ケア・スピリット
良質で安全なケアの提供を通じて、地域のあらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献できる。
3. 人間の実践的理解
多様な人々の看護に必要かつ十分な知識を身に付け、個人、家族、集団、地域について幅広く理解できる。
4. プロフェッショナリズム
看護ケアに必要となる専門的知識と技術を備え、地域の特性の理解を踏まえ、人々の尊厳を擁護する看護実践に活かすことができる。
5. 多職種連携・チームワーク
看護対象者や保健・医療・福祉や生活に関わる全ての人々と連携し協働できる。

看護学部での学び

1. 岐阜保健大学看護学部について

平成20年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では、高等教育の多様な機能や個性・特色教育にとどまらず、「多様性と標準性の調和」という提言がなされました。本学では、標準性を充分担保するため、多様な学生に対する精度の高い教育指導体制や国家試験準備のサポートを行う。加えて、自立した看護職の育成のため、入学後早期からキャリアデザインに取り組み、学生のキャリアへの志向性および意欲高揚を図っていきます。

また、グローバル化が益々進む社会や医療状況に対応するため「多文化と多様性の理解」など

の科目を設置し、本学部が設置予定である岐阜市との地域連携による包括的な健康戦略的活動を推進していく。これらの基本的な高等教育の機能により、現代社会や地域の健康ニーズに応え、特色ある教育目標を確実に達成できるよう努めていきます。

看護は実践の科学であり、学問です。看護学部生の皆さんは、「豊かな人間性と自立した意志をもった社会貢献ができる看護実践者」として社会に羽ばたき、看護職として目的意識と確かな実践能力を現場で身につけた後、さらに高度な実践能力や、管理者としての能力、教育者としての能力を習得するために大学院で学んでください。本学は、皆さんのキャリアアップに十分に貢献することのできる教育機関です。

2. 看護学部理念

少子高齢化、医療の高度化、社会変化と生活の多様化が進む中で、社会の変遷を通して拡大された看護学と看護の役割を果たすため、より高度な看護教育が求められています。本学看護学部の教育理念は、看護の深い専門的な知識と技術を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけた、常に自己研鑽を継続できる高い資質と看護実践能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて広く地域と社会の保健・医療・福祉の向上に貢献することです。また本学部の人材養成像は、看護の深い専門的な知識と技術を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけた、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献することのできる、常に自己研鑽を継続できる高い資質と看護実践能力を持った看護職者である。上記の人材養成により、人々が健康に生きることを支援し、あわせて地域社会における保健・医療・福祉の連携と発展に貢献します。

3. 看護学部看護学科の教育目的・教育目標

(建学の精神)

命と向き合う心、知識、技を持った地域医療に貢献できる医療人の養成

本学部の目的と教育理念

新たに開設する岐阜保健大学の目的、看護学部看護学科の教育理念は、建学の精神に基づき、以下としました。

(看護学部の教育理念)

看護の深い専門的な知識と技術を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけた、常に自己研鑽を継続できる高い資質と看護実践能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて広く地域と社会の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的とする。

1) 教育目的

岐阜保健大学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に基づき、保健医療に関する専門の理論及び技術を深く教授研究し、並びに豊かな人間性、高潔な人格と専門的能力をかね備えた資質の高い人材を養成することにより、地域の保健医療の向上と福祉の増進に寄与し、その教育研究の成果により、広く地域と社会の発展に貢献することを目的としました。

具体的には次の7つの教育目標を設定しました。

2) 教育目標

看護の深い専門的な知識と技術を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけた、常に自己研鑽を継続できる高い資質と看護実践能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて広く地域と社会の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的に以下の7つを教育目標としています。

[養成する能力]

1. 社会に広く貢献するための幅広く深い教養、総合的な判断力及び誠実で豊かな人間性を培います
2. 人間の尊厳と権利を擁護する能力と高い倫理観を基盤としたヒューマンケアの態度を養います
3. 科学的根拠に基づき、看護を計画的かつ安全に実践する能力を養います
4. 個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を査定し、より質の高い看護を実践できる能力を養います
5. ケア対象のあらゆる発達段階、健康状態、心理状態に対応して援助できる能力を養います
6. 保健医療福祉チームとの関係性を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した看護を提供できる能力を養います
7. 看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させる能力を養います

上記の能力を身につけさせることで、看護の視点で高いヒューマンケアの実践能力を備え、基礎的な指導・調整能力を有し、科学的専門的知識・技術を持って、地域社会に貢献できる自立した看護職者を養成する。また岐阜市に立地することを活かし、地域医療を担う医療機関での臨地実習等を中心に、地域との連携を重視し、その保健医療ニーズに精通した看護職者の育成を図る。

4. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

4-1 教育方法

4-1-1 教育課程と配当年次の設定

本学は看護学部のみ単科大学であるので、看護学教育に特化した単一のカリキュラム構成となっています。本学部の教育課程は、基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目の3区分で構成しており、基本教育科目は主に1年次、専門教育関連科目は1年次と2年次、専門教育科目1年次から4年次にかけて配置しており、基本教育科目から専門教育科目へと4年間で体系的な学修が可能となる教育課程としています。講義科目と演習科目・実習科目は、1年次から講義で学んだことを演習・実習で体験し、学びの内容が着実に身に付くように適切に配置している。すべての授業科目のシラバスを作成し、授業目的・獲得目標、授業の内容、方法、評価方法、事前事後学習を丁寧に記載し、学生の科目履修を支援する。

4-1-2 授業の方法

本学部における授業方法は、知識の理解と獲得を目的とする科目については、原則として講義形式の授業形態としています。態度志向性及び技術技能の修得を目的とする科目については、演

習形式の授業形態とし、学生の主体的かつ能動的な学びを引き出します。必要に応じて少人数グループ学習、学生の参加学習等の双方向型、アクティブラーニングを重視した学習を展開します。特に看護技術の演習は、指導教員及び助手を複数配置する。その他科目の演習では、専任教員が1～5名の対応で指導に当たる。さらに、技術実習については補講等を行い、達成できるところまで指導します。

4-1-3 授業の内容に応じた学生数

受講する学生の人数については、教育目的を効果的かつ確実に達成するために、授業科目ごとの授業形態に則して、英語科目は20名、講義形式科目は80名、演習形式科目は40～80名、臨地実習では、1か所及び1病棟につき原則として5名（実習科目により増減することはある）とする。

4-1-4 履修科目の登録上限〔CAP 制〕

各科目の単位数に求められる学修時間、自宅学修時間を担保し、4年間を通じた学生の学修効果を高め、学生が無理なく学内及び自宅での学修に励むことができるように、年間の履修単位の上限を54単位、各学期における履修単位の上限を27単位としています。

4-1-5 GPA 成績評価

卒業時の学生の質を担保する観点からあらかじめ学生に対し、授業における学習目標や、その目標を達成するための授業の方法、計画等シラバスを通じて明示しています。さらに成績評価基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うため、GPA 制度を導入しています。

4-2 履修指導

4-2-1 履修指導方法

履修指導の方法は、各学期開始時に行う学生オリエンテーションにおいて、卒業までの履修計画に基づき、各学期に取るべき必修科目、選択科目について詳しく説明し、学生に周知徹底を図ります。本学部は、コース分けのない単一のコース（看護師コース）設定であるため、学生に対しては、必修科目の履修時期や、各学生の興味や関心に従って履修すべき選択科目について助言を行います。本学部では保健師、助産師の資格は取得できないため、3年次、4年次の学生については、卒業後に保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格が取得できる大学院・大学専攻科などの情報を提供し、学生個々の将来のキャリア構築を考慮した指導を行う。各学期のオリエンテーション内容は以下の通りです。

（オリエンテーションの内容）

- ・1年次から4年次までの履修計画の全体像について説明する。
- ・各年次において必要な履修科目について説明し、履修の指導を行う。
- ・選択科目の履修の助言を行う。
- ・臨地実習科目の履修に必要な講義科目、演習科目について説明する。
- ・卒業後の看護師国家試験と試験準備に必要な学修内容について説明する。

4-2-2 アドバイザー制の導入

本学部では、アドバイザー（担任）制を採用する。少人数担任制（学生 10 名に対して専任教員 1 名をアドバイザーとして配置）により、学生生活や履修方法に関する相談に応じ、学生それぞれの状況に合わせた個別指導の体制を整え、学生の修学環境を支援する。

4-3 卒業要件

4-3-1 卒業要件単位数

卒業要件として必要な授業科目の単位数は、以下とする。なお、講義及び演習は、15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とし、実習は、45 時間をもって 1 単位とする。

【卒業要件】 124 単位

必修科目	基本教育科目	13 単位（必修）	105 単位（必修）
	専門教育関連科目	22 単位（必修）	
	専門教育科目	70 単位（必修）	
選択科目	全ての選択科目から	19 単位以上（選択）	
合計		124 単位以上 （必修科目 105 単位+選択科目 19 単位以上）	

4-3-2 具体的な履修指導方法

基本教育科目の必修科目として、4 つの科目群において、「思考力の養成」から 3 科目（3 単位）、「表現力の養成」から 3 科目（3 単位）、「人間力の養成」から 2 科目（3 単位）、「人間の理解」から 2 科目（4 単位）を履修し、10 科目（13 単位）を修得する。

専門教育関連科目の必修科目として、2 つの科目群において、「健康と健康障害の理解」から 12 科目（15 単位）、「社会と環境の理解」から 6 科目（7 単位）を履修し、18 科目（22 単位）を修得する。

専門教育科目の必修科目として、10 の科目群において、「看護の基本」から 10 科目（12 単位）、「成人看護学」から 5 科目（12 単位）、「老年看護学」から 5 科目（8 単位）、「小児看護学」から 4 科目（6 単位）、「母性看護学」から 4 科目（6 単位）、「精神看護学」から 4 科目（6 単位）、「在宅看護学」から 4 科目（6 単位）、「看護の統合と発展」から 5 科目（7 単位）、「公衆衛生看護学」から 2 科目（4 単位）、「看護研究」から 2 科目（3 単位）を履修し、45 科目（70 単位）を修得する。

以上により必修科目として 72 科目（105 単位）を修得し、全ての選択科目から 19 単位以上を修得し、合計 124 単位以上を修得することを、卒業要件とする。本学部では、学生が学ぶべき科目は全て必修科目とし、また学生の科目選択と自主性を尊重することから、選択科目については選択必修科目、条件付き必修科目等を設定しない。なお、選択科目の分布は、基本教育科目に 21 単位、専門教育関連科目に 3 単位、専門教育科目に 14 単位を配置している。看護学部は、3 年次は臨地実習、4 年次は国家試験の準備や就職活動等で学生の負担が大きくなることから、1 年次からの積極的な科目履修を推奨する。

（資料「カリキュラムマップ」（全科目の配置））

5. 本学部の理念、教育目的、教育目標、教育課程の関連

本学部の理念、教育目的、教育目標と教育課程は、以下の図のように関連しています。

<教育理念> <教育目標>

<能力>

<教育課程>

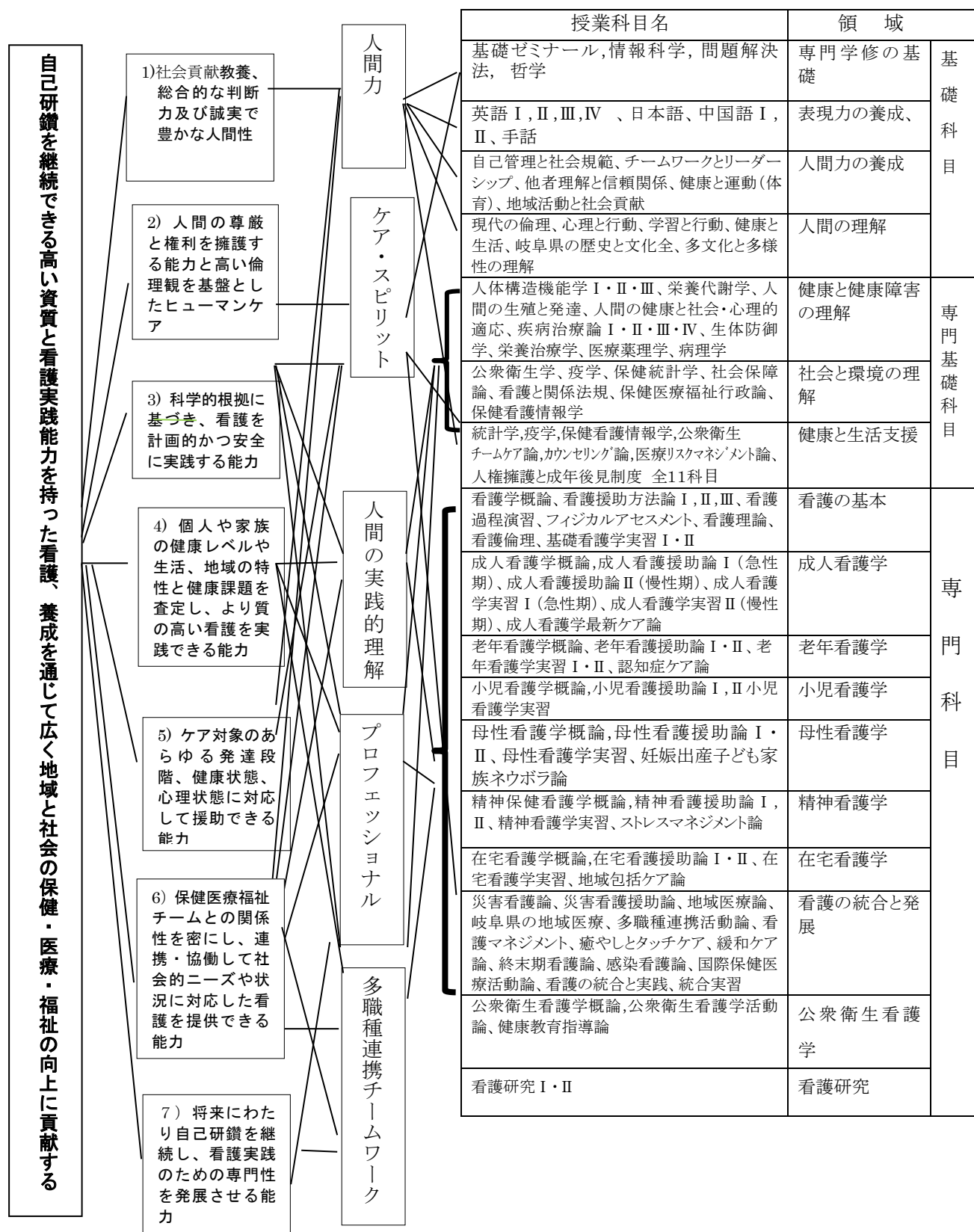


図 看護学部看護学科の教育理念・目標・教育課程との関連

岐阜保健大学短期大学部

【 リハビリテーション学科の教育理念 】

豊かな人間性と想像力を備えた資質の高い保健医療技術者を育成するとともに、地域に開かれた大学として生涯学習の機会を提供することにより、地域の人々の健康、福祉の向上に寄与する。

理学療法士・作業療法士が関与する様々な分野での高度な知識や技術に精通した専門職を養成するとともに、人間性豊かな自己実現に向けて前向きな努力を示す「人」の育成を目的とする。そのためには、「人の理解」「人との協力」「人の科学的分析」の視点で教育を進めることにより、高齢化、国際化、情報化と社会情勢の変化に的確に対応できる知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた保健医療技術者を育成することをめざす。

《 リハビリテーション学科の教育目標 》

- 1) 人間と社会に対する深い理解と生命の尊厳の認識を深め、人としての権利を尊重できる保健医療技術者の育成。
- 2) 高度・専門医療に対応し得る幅広い知識・技術を備えた保健医療技術者の育成。
- 3) 進んで自ら学ぶ精神と態度を身につけ、高齢化、国際化、情報化等時代の変化に的確に対応できる保健医療技術者の育成。
- 4) 保健医療チームの一員として他職種と協調し、自ら考え積極的に保健医療活動を実践できる保健医療技術者の育成。

3つのポリシー

アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)

本学は、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- 1) 対人関係を良好に保つ能力を備えた人。人間(ヒト)に深い関心と畏敬の念を持ち、多様な価値観や文化的背景を理解し、人との出会いを通じて学び合おうとする人。
- 2) 資格取得に向けた高い意欲を持ち続けられる人。リハビリテーション学に対する知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人。
- 3) 論理的思考を遂行するための基礎的な学力を備えた人。絶え間なく進歩する医学を理解していくための基礎学力を有し、それらを探求する姿勢のある人。

カリキュラムポリシー(教育課程編成方針)

本学のカリキュラムはリハビリテーション学科のそれぞれの教育理念・教育目標に基づき、基礎から専門・応用へと段階的に学習し、実践的な医療人になるための編成です。基礎的な学習では、「総合科学科目」として社会生活に有用な、幅広い視野と協調性を有した人材の育成を目的とした科目を配置します。さらに、専門科目は、専門基礎科目として臨床での実践力の基礎となる科目を学習し、ついで専門知識・技能を身につけ、判断力・実践力を持つ専門職業人となるため、専門展開科目を配置します。

「総合科学科目群」

「外国語」「情報科学」「人間と文化」「現代社会と人間」「環境と科学」から構成され、高等学校からの連携教育を図りつつ将来、人間（ヒト）を対象とする職業に就くことを誇りに思い、あらゆる健康状況にある人たちおよび様々な医療専門職者との積極的な連携・協働を可能にする積極性と協調性・コミュニケーション能力を育成する科目群です。

「専門基礎科目」

「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復過程」「保健医療福祉制度」から構成され、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を培い、エビデンスに基づいた技術を展開できる能力を育成する科目群です。

「専門展開科目」

リハビリテーション学科では「評価」から「治療」に及ぶ科目を習得し、臨地実習及び臨床実習を通して医療従事者として保健・医療・福祉の現場で生じる問題に対応し、実践的に処理できる能力を育成する科目群です。

以上3種の科目群を通して、国家資格を取得しキャリア形成することを意識し、医療従事者として地域社会に貢献できる人材を育成するカリキュラム構成です。

ディプロマポリシー（学位授与方針）

本学の学則に定める卒業要件に必要な単位を修得し、卒業までに以下の能力を備えた学習者に「短期大学士」の学位を授与します。

- 1) 人間（ヒト）に深い関心を持ち、多様な価値観や文化的背景を理解でき、幅広い教養を身につけている。
- 2) 科学的思考に基づく判断力と問題解決能力を身につけている。
- 3) 卒業後に医療従事者として生涯にわたり研鑽を積み、保健・医療・福祉の分野に貢献できる能力を身につけている。

2. 教育研究上の基本組織

学 科・専 攻	入学定員	修業年限	区 分	収容定員
岐阜保健大学看護学部 看護学科	80 名	4 年	昼間・共学	320 名
岐阜保健大学短期大学部 リハビリテーション学科 〔理学療法学専攻〕	60 名	3 年	昼間・共学	180 名
岐阜保健大学短期大学部 リハビリテーション学科 〔作業療法学専攻〕	30 名	3 年	昼間・共学	90 名

3. 教員組織・教員数並びに各教員が有する学位及び業績

専任教員数

2019年5月1日 現在

職位	性別	岐阜保健大学 看護学部	岐阜保健大学 短期大学部 看護学科	岐阜保健大学 短期大学部 リハビリテーション 学 科 〔理学療法学専攻〕	岐阜保健大学 短期大学部 リハビリテーション 学 科 〔作業療法学専攻〕
教授	男性	1 名	1 名	4 名	1 名
	女性	6 名	4 名	1 名	1 名
准教授	男性			1 名	
	女性	3 名	1 名		
講師	男性	1 名	1 名	4 名	1 名
	女性	2 名			1 名
助教	男性			1 名	1 名
	女性	2 名	1 名		1 名
助手	男性				
	女性		3 名		
計	男性	2 名	2 名	10 名	3 名
	女性	13 名	9 名	1 名	3 名
合計		15 名	11 名	11 名	6 名

専任教員の年齢構成

2019年5月1日 現在

年齢	性別	岐阜保健大学 看護学部	岐阜保健大学 短期大学部 看護学科	岐阜保健大学 短期大学部 リハビリテーション 学 科 〔理学療法学専攻〕	岐阜保健大学 短期大学部 リハビリテーション 学 科 〔作業療法学専攻〕
31～40 歳	男性	1 名	1 名	1 名	1 名
	女性		1 名		
41～50 歳	男性			3 名	2 名
	女性	4 名	2 名		2 名
51～60 歳	男性			4 名	
	女性	1 名	2 名		
61 歳 以上	男性	1 名	1 名	2 名	1 名
	女性	8 名	4 名	1 名	1 名
計	男性	2 名	2 名	10 名	3 名
	女性	13 名	9 名	1 名	3 名
合計		15 名	11 名	11 名	6 名

4. 入学者受入方針及び入学者数、収容定員及び在学する学生の数、卒業者数、就職の状況

入学者数

2019年5月1日現在

2019年度 入学者選抜状況 岐阜保健大学 看護学部	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	325名		281名		191名		98名	
	63名	262名	51名	230名	31名	160名	20名	78名

2019年度 入学者選抜状況 リハビリテーション学科 〔理学療法学専攻〕	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	126名		115名		69名		50名	
	82名	44名	72名	43名	44名	25名	32名	18名

2019年度 入学者選抜状況 リハビリテーション学科 〔作業療法学専攻〕	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	54名		49名		31名		23名	
	16名	38名	16名	33名	8名	23名	6名	17名

在学生数

2019年5月1日 現在

		岐阜保健大学 看護学部	岐阜保健大学 短期大学部 看護学科	岐阜保健大学 短期大学部 リハビリテーション学 科 〔理学療法学専攻〕	岐阜保健大学 短期大学部 リハビリテーション学 科 〔作業療法学専攻〕	総 計
入学定員		80名	0名	60名	30名	170名
収容人員		80名	160名	180名	90名	510名
1年次	男	20名		37名	6名	63名
	女	78名		20名	17名	115名
2年次	男		17名	9名	6名	32名
	女		73名	5名	10名	88名
3年次	男		19名	23名	9名	51名
	女		49名	6名	4名	59名
計	男	20名	36名	69名	21名	146名
	女	78名	122名	31名	31名	262名
総 計		98名	158名	100名	52名	408名

卒業者数・就職者数・就職状況

2019年5月1日 現在

	看護学科	リハビリテーション 学科 〔理学療法学専攻〕	リハビリテーション 学科 〔作業療法学専攻〕
卒業者数	57名	17名	5名
就職希望者数	56名	17名	5名
就職者数	48名	15名	5名
就職率	85%	88%	100%

5. 授業料・学費等

入学検定料 (2019年度実績)

看護学部 30,000円

リハビリテーション学科 30,000円

入学金・学費 (2019年度実績)

【岐阜保健大学看護学部】

年次	内訳	入学金	授業料	施設費	教育充実費	演習・実習費	合計
1年次	前期 入学手続時	200.000円	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	900.000円
	後期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円
2年次	前期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円
	後期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円
3年次	前期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円
	後期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円
4年次	前期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円
	後期	-	350.000円	125.000円	125.000円	100.000円	700.000円

上記の他に、「学生後援会入会金、年会費」、「学用品費用（ユニホーム、シューズ等）」、「総合補償制度保険料」、「健康診断費用自己負担分」等の費用（約11万円）が必要となります。

【リハビリテーション学科 〔理学療法専攻〕〔作業療法学専攻〕

内訳 年次	入学金	学 費			合 計
		授 業 料		実習費	
1 年次学納金	100,000 円	前期	500,000 円	50,000 円	650,000 円 (入学時納入金)
	—	後期	500,000 円	50,000 円	550,000 円
2 年次学納金	—	前期	500,000 円	125,000 円	625,000 円
	—	後期	500,000 円	125,000 円	625,000 円
3 年次学納金	—	前期	500,000 円	175,000 円	675,000 円
	—	後期	500,000 円	175,000 円	675,000 円
3 年間の納入総額					3,800,000 円

上記の他に、実習用ユニホーム、シューズ、総合補償制度保険料等の費用（約 6 万円）と教育充実費（1 年次 10 万円、2 年次 20 万円、3 年次 20 万円）が必要となります。